

増補・改訂 兵範記人名索引

▶ A 5判・520頁／定価9,450円(税5%込) ISBN978-4-7842-1713-7 **2013年10月刊**

2007年5月刊行の『兵範記人名索引』本文篇の誤り・遺漏などを改訂し、新たに「異称・通称名索引」30頁を増補した。

本文篇……史料大成本を底本とし、男子の部と女子の部の2部構成よりなり、人名項目のもとに掲出年月日と原文表記を掲げ、原本の情報を盛り込む

通称・異称名索引……「母后」「武蔵守」などの通称・異称について、誰のことを指すのかを示した

男子 部 (イ)		伊	
3. 6. 27	権中納言伊実	高広 1. 2. 24	使王
3. 8. 9	鳥(太)后宮(権)大夫伊実卿	伊 忠 藤原	
3. 9. 9	皇太后宮権大夫伊. 上卿	仁平 2. 11. 13	大夫伊忠
3. 10. 17	公卿皇太后宮権大夫伊実	久寿 2. 10. 30	宰相大夫伊忠
3. 10. 19	皇太后宮権大夫伊実(伊実ナシ)	伊 長 藤原	
3. 10. 20	皇太后宮権大夫伊実卿	仁平 2. 4. 8	殿上五位數位伊長
3. 11. 21	皇太后宮権大夫伊実卿	2. 8. 14	數位伊長
3. 12. 10	伊実	2. 11. 6	殿上五位伊長
仁安 3. 6. 22	皇后宮権大夫藤原朝臣伊実	久寿 1. 1. 30	伊長
		1. 2. 2	伊長 大納言大夫
		保元 2. 2. 12	數位伊長
伊 周 藤原		伊 通 藤原	
仁安 3. 11. 21	内大臣藤原伊周	久安 5. 10. 10	権大納言伊通
伊 俊		5. 10. 19	大宮大納言伊通
水治 1. 3. 25	五位殿上人伊俊	5. 10. 26	権大納言伊通卿
1. 3. 29	伊俊	仁平 2. 2. 13	権大納言伊通
久安 5. 11. 8	數位伊俊	2. 2. 18	上卿 権大納言伊通卿
5. 11. 11	左方(兼皇子) 伊俊	2. 2. 25	権大納言伊通
仁平 2. 8. 14	前佐渡守伊俊	2. 3. 6	権大納言伊通卿
伊勢阿闍梨(僧)		2. 3. 7	権大納言伊通 権大納言藤原朝臣伊通
仁平 3. 1. 7	伊勢阿闍梨	2. 3. 8	権大納言伊通卿 院司
3. 4. 29	顯名僧五口 五僧	2. 3. 9	権大納言伊通
3. 4. 29(兼)	伊勢阿闍梨	2. 3. 20	伊通
3. 5. 1	四僧	2. 5. 15	権大納言伊通
3. 5. 6	五僧	2. 5. 19	大宮大納言
3. 11. 9	伊勢阿闍梨	2. 10. 20	大納言伊通卿
3. 11. 16	阿闍梨	2. 10. 26	大納言伊通
保元 2. 5. 11	伊勢阿闍梨	2. 11. 11	大納言伊通
2. 5. 13	伊勢阿闍梨	2. 12. 2	権大納言
3. 12. 4	伊勢阿闍梨	2. 12. 22	院司大納言伊通
嘉祿 2. 5. 10	阿闍梨	3. 1. 16	大納言伊通卿
2. 5. 12	寺阿闍梨	3. 1. 21	大納言伊通卿
2. 5. 12(兼)	(僧二人)	3. 3. 5	権大納言伊通
2. 6. 22	阿闍梨	3. 6. 20	阿(僧)伊通
		3. 9. 14	大納言伊通卿
伊勢使王		久寿 2. 4. 14	大納言伊通
仁安 2. 11. 11	使王	2. 5. 19	権大納言伊通
3. 9. 7	伊勢使王	2. 6. 26	権大納言伊通
3. 9. 11	伊勢使王	2. 7. 23	大納言伊通卿
3. 10. 3	伊勢使王	2. 7. 27	大納言伊通卿 兩納言
3. 10. 8	使々三人 使王	2. 8. 1	大納言伊通卿
		2. 8. 2	大納言

(男子の部 組見本)

此礼院御寺次見侍活時慈式七宰相御実車若主

通称・異称名索引(シ)

此宮 → 九条院 皇親門院 借子内親王	治部卿 → 光隆
此例 → 公隆	治部卿藤原朝臣 → 光隆
此女院 → 高陽院	治部少輔 → 兼光 宗雅
此人 → 親家 親範	時真人遺女 → 時真の女
此堂首殿 → 大式局	慈覺大師 → 円仁
此殿 → 盛子	慈惠大僧正 → 良暲
此此衛 → 兼雅	慈母 → 惟信の女 定国の母
此兩卿 → 實因 実房	式部丞 → 為宗 龍業
死人 → 頼其の女	式部大夫 → 高基 摩訶 通能
使 → 伊輔 顯輔 実家 成親 政規 宗茂	式部大輔(朝臣) → 永範
長成 有盛 頼定 隆季	式部大輔卿 → 永範
使々三人 → 伊勢使王 実因 親範	式部大輔藤原朝臣 → 永範
使王 → 伊勢使王 兼季王 致重王	七宮 → 覺法親王
使尉 → 時忠	七宮山 → 覺法親王
使尉相 → 家通	室(家) → 顯房の女 盛子
使尉相四人 → 兼雅 實賢 実家 俊成	室室二品 → 馬子
使者 → 兼衡 兼貞	執行 → 俊成 能因
使助某 → 藏司使助某	執行法眼 → 俊成
使少尉 → 基家	執行法眼 → 俊成
師 → 尊純 大進君の師	執取 → 忠通
師碑 → 清隆	執事 → 兼朝 公教 公保 実朝 親朝 成朝
寺 → 慶印	執事大臣 → 公教
寺阿闍梨 → 伊勢阿闍梨	權藤原公 → 惟信の女
寺家執行法眼 → 俊成	權藤原上 → 惟信の女
寺家別當僧正 → 隆覺	実仁大弟 → 実仁親王
寺上卿 → 時忠	車副 → 基次
寺長史大進君信法 → 覺法親王	若宮 → 基通 高倉院 守覺法親王
寺法印 → 覺忠	若狭 → 藤隆
次官 → 忠定	若君 → 基通 基房 兼実 兼忠 兼長 親
次官三人 → 俊成 仲頼 朝宗	兼 忠良 道円 親長
次折 → 俊成	若君三人 → 基房 兼実 道円
次折 → 通賢	若君二人 → 兼実 忠通の男 道円
次折司主典 → 知重	若公 → 兼実
見 → 成経	主 → 高倉院
侍賢門院 → 侍賢門院	主基行奉事 → 重方
侍医 → 重長	主基園司 → 惟朝 賢頼
侍從(殿) → 基通 清経	主基執行史 → 盛直
侍從室相 → 公光	主基女工所勾當少納言内侍 → 榮子
侍從実 → 実明	主基内侍 → 榮子
侍從大納言 → 成通	主基内侍少納言 → 重方
侍從藤原朝臣 → 公光 成通	主上 → 一乘院 近衛院 藤原院 後白河院
侍所司 → 宗孝	高倉院 崇徳院 鳥羽院 二乗院 六条院
侍中 → 光経 親光	主上祖母父母 → 時信 祐子
侍長 → 有盛	主上御乳母紀伊典侍 → 朝子

(通称・異称名索引 組見本)

兵範記輪読会：1980（昭和55）年5月2日発足、代表・杉橋隆夫 立命館大学文学部特任教授

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	増補・改訂 兵範記人名索引		本体9,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1713-7
お名前		tel			書店番線印
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)			本書HPのQRコード	

人車記【全4冊】

陽明叢書記録文書篇 第五輯

近衛道隆監修／陽明文庫編集／上横手雅敬解説

近衛家伝来の文庫藝文の記録及び文書中より中世の未公刊史料を中心に影印で刊行するシリーズ。第五輯では陽明文庫に所蔵されている29巻の兵範記を影印で収録。

▶A5判・平均460頁／定価各12,600円

ISBN4-7842- (1)-0456-3 (2)-0464-4 (3)-0470-9 (4)-0486-5

＊院政期政治史研究

元木泰雄著

思文閣史学叢書

卒論で武家棟梁の政治的限界に気付いて以来、大きな政治力を有する荘園領主権門の分析に傾倒してきた著者が、権門としての摂関家の特質に注目した新たな平安期政治史を提示する。また平氏政権を取り上げ、諸権門の相剋・対立、職能分離した権門の鼎立に至る過程に迫る。

▶A5判・406頁／定価8,190円

ISBN4-7842-0901-8

後鳥羽院政の展開と儀礼

谷昇著

後鳥羽天皇（上皇）が課せられた政治課題とそれに対する対応＝政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証することにより、多面的な視点に立った後鳥羽院政の政治史叙述を企図したものである。

▶A5判・328頁／定価6,300円

ISBN978-4-7842-1536-2

摂関時代文化史研究

関口力著

思文閣史学叢書

藤原道長の時代を中心に取り上げ、リアルタイムに日々の上出来事が記される古記録・日記類をもとにして、摂関時代全盛期に生きた人物、および彼らをはぐくんできた社会について考察。政権を掌握した体制派、それに対する反体制派、官人層とは一線を画した非体制派という人間類型を示し、人間が主人公である歴史の在り方について追究する。

▶A5判・488頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1344-3

平安貴族社会の秩序と昇進

佐古愛己著

律令国家体制が維持されていた平安初期から、平安末・鎌倉初期までを射程として、貴族社会の構成と編成原理を解明する大著。人事・昇進制度、特に叙位制度の体系的な把握を試みることににより、律令官人制から平安貴族社会、中世公家社会の成立過程を明らかにし、日本の古代から中世への移行の特質を探る。

▶A5判・572頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1602-4

古代・中世の政治と文化

上横手雅敬監修／井上満郎・杉橋隆夫編

監修者の京都大学退官を機に研究成果を集約。【執筆】西山良平／橋本鏡則／元木泰雄／美川圭／川端新／夙野修慈／杉橋隆夫／今岡典和／今谷明／伊藤之雄／鎌田元一／吉川真司／東原永遠男／瀬井宏治／上島亨／谷口昭／笠原和比古／本郷真緒／井上満郎／小林保夫／田島公／勝山清次／綾村安／上横手雅敬／山内誠／仁木安

▶A5判・680頁／定価14,700円

ISBN4-7842-0818-6

今昔物語集の人々 平安京篇

中村修也著

虚実ない交ぜ話柄の豊富な説話文学の古典から平安京という都市で生きる人々—商人・檢非違使・怪僧・陰陽師・絵師たち—の様々な姿を描写する。【内容】都人の楽しみは神社詣で／不思議な力の商人たち／怪僧団の跋扈する都／平安京の冥界と霊力／都に生まれた芸術家 他

▶A5判・220頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1213-2

＊古記録と日記【上・下】

山中裕編

古記録を歴史学、「かな」の日記を国文学の分野で扱ってきた従来の研究。本書は、日記という大きな見地から平安朝の古記録と日記文学の本質を明らかにする。挿入図版60余点。

▶A5判・(上)252頁(下)266頁／定価各3,045円

ISBN4-7842- (上)-0752-X (下)-0753-8

兵範記(一)～(三)

兵範記(四)・範圍記・知信記【未刊】

京都大学国史研究室編

京都大学史料叢書

京都大学所蔵の古文書古記録のうち、善本を活字あるいは影印にて刊行するシリーズ。平信範の子孫である平松家旧蔵の25巻を影印刊行。

▶A5判・平均430頁／既刊定価各11,025円

ISBN4-7842- (1)-0525-X (2)-0559-4 (3)-0568-3

＊院政とその時代 王権・武士・寺院

田中文英著

佛教学大学鷹陵文化叢書8

古代国家から中世国家への国家権力形成の転回のうちで最も重要な中期・院政期を形作った各権門の動向についての論考8篇を収録。荘園支配など地域社会にも目を向け、社会的にも政治的にも大きな変化が生じた激動の時代を分析した既発表の論考を大幅に改稿。

▶A6判・310頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1149-7

中世京都の空間構造と礼節体系

桃崎有一郎著

中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、聖野権力の形成・展開過程をも論ずる。

【内容】中世公家社会における路頭礼秩序／中世武家社会の路頭礼・乗物と公武の身分秩序／中世洛中における街路通行者と第宅居住者の礼節的関係／中世里内裏の空間構造と「陣」 他

▶A5判・584頁／定価7,560円

ISBN978-4-7842-1502-7

摂関院政期思想史研究

森新之介著

摂関院政期における民衆仏教史観の研究史を整理し、当該期の思想家たちや事象の考察および実証研究を深めることにより、通説としての民衆仏教史観と切り結び、その実像を鋭く描き出す。日本の思想史上、極めて重要な時期の一つとされる摂関院政期の思想史叙述に修正を迫る一書。

▶A5判・352頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1665-9

中世前期女性院宮の研究

山田彩起子著

院政・鎌倉期における女性院宮(女院・后)の多様な存在形態を様々な視点から分析。第一部では、国母の存在形態の多様性と王家における役割・位置付けを検証し、第二部では、摂関家出身の女性院宮の摂関家における独自の役割の大きさを論証する。

▶A5判・310頁／定価5,880円

ISBN978-4-7842-1496-9

文芸の創成と展開

村井康彦著

歴史と文学の虚実—私日記・説話・歴史物語などを通して平安貴族の生活、受領の実態、武士の精神構造、女性たちの愛憎をさぐる“村井文化史学”の粋29篇を収め、著者の一剋遺言を提示する一書。

【内容】平安貴族の生活／『蜻蛉日記』の時代／転換期の社会階層／道典の左遷と天神信仰／『方丈記』の時代／『平家物語』覚書 他

▶A5判・400頁／定価5,040円

ISBN4-7842-0558-2

『親信卿記』の研究

佐藤宗諄先生遺宮記念論文集刊行会編

平親信の日記『親信卿記』は、職人の年中行事に関する一般史料である。本書は、四方押・供立春水など80項目余の行事ごとに記事を抽出・分類し、その内容の基礎的な研究を試みたものであり、関係補論6篇のほか古代史の個別論考4篇も収録。

▶A5判・600頁／定価10,290円

ISBN4-7842-1252-3

栄花物語・大鏡の研究

山中裕著

従来『栄花物語』は特に国文学の分野で取り上げられ、歴史学の方面からの研究は少ない。本書は『栄花物語』に内包される歴史書としての特徴を考究し、かつ『大鏡』の歴史的意義についても論究。従来からの歴史物語という分野に収まりきれない可能性を提示する。

▶A5判・404頁／定価7,560円

ISBN978-4-7842-1640-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございませ